

## 1. エネルギーを無駄にしないまち（地球環境）

## (1) 現状と課題

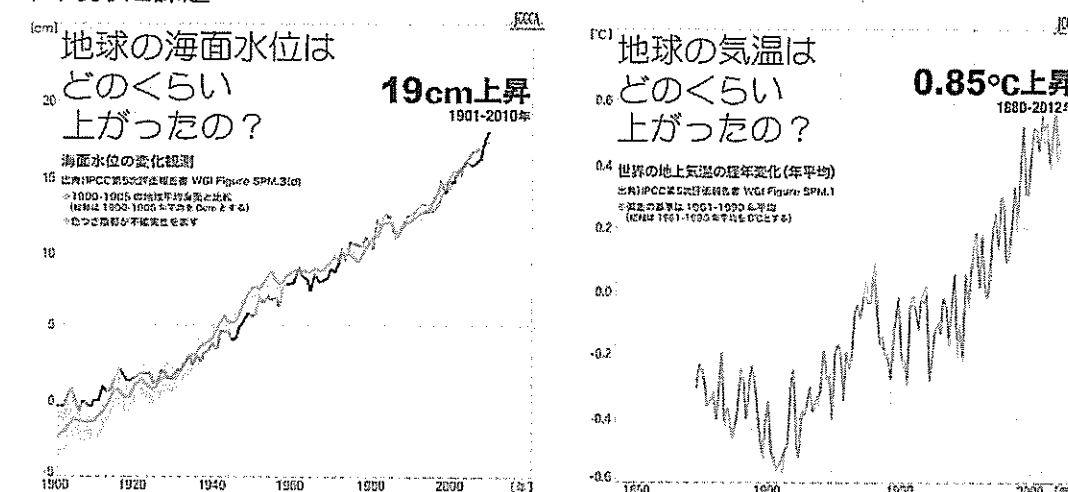
- 日本における温室効果ガス（CO<sub>2</sub>など）の削減に向けた取り組み  
京都議定書第一約束期間（平成 20～24 年度）において、基準年（原則として平成 2 年）比 6 % の温室効果ガス（CO<sub>2</sub>など）の削減に向けた取組を行ってきました。  
また、平成 25 年度以降の対策として、京都議定書目標達成計画に掲げた取組と同等以上の取組を進めることとし、その実施に向けて着実に取組を進めているところです。
- 滝川市の二酸化炭素排出量（推計）  
平成 24 年（2012 年）が 359 千 t で、平成 19 年（2007 年）の排出量 349 千 t と比較して、2.9 % 増加しています。  
※出典：部門別 CO<sub>2</sub> 排出量の現況推計（環境省）
- 地域における新エネルギーや省エネルギー機器の導入  
庁舎及び学校などの公共施設への太陽光発電設備や小型風力発電設備、LED 照明設備、高効率タイプ照明器具の導入などのほか、住宅用太陽光発電導入支援補助金及びメガソーラー（大規模太陽光発電所）の誘致により市内の太陽光発電設備が増加しました。  
・生ごみによるメタンガス発電 … 広域ごみ処理施設リサイクリン  
・可燃ごみを焼却した熱による発電 … 広域ごみ焼却施設中・北空知エネクリーン  
・し尿や浄化槽汚泥、下水道の汚水によるメタンガス発電 … 石狩川流域下水道奈井江浄化センター
- 課題  
世界的に温室効果ガスの削減は重要な課題となっています。民生部門、運輸部門をはじめ、各部門において省エネルギー対策の推進が求められているほか、これまで利用されていなかった未利用エネルギーの利用を検討するなど、暖化防止に寄与することが求められています。

## (2) 第 1 次計画の数値目標となっている目標達成状況

- 省エネモニターの CO<sub>2</sub>削減量におけるエネルギー消費量について  
前年比 1 % 削減ですが、概ね目標達成できる見込みです。なお、省エネモニターは、市民の省エネ意識向上を目的に行っています。
- 滝川市の公共施設におけるエネルギー消費量について  
市立病院の建て替えによる増や 1 m<sup>2</sup>あたりの原単価が大きな社会福祉施設の譲渡などにより比較が難しくなりましたが、省エネルギーに努め、年々エネルギーの原単位は減少しています。

## 1. エネルギーを無駄にしないまち（地球環境）

## (1) 現状と課題



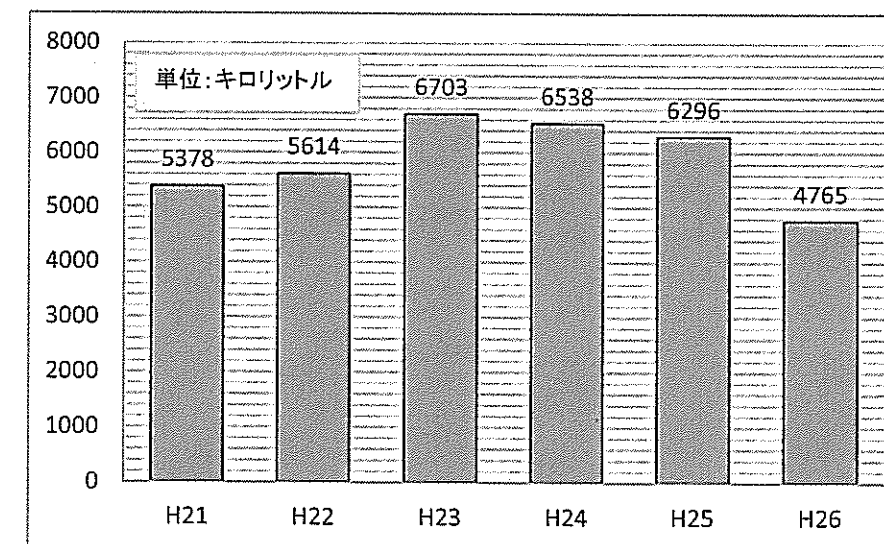
IPCCは国際連合環境計画(UNEP)と世界気象機関(WMO)によって、気候変動の影響規模や緩和・適応の手段について科学的、技術的、社会経済学的な情報を分析するために創立された。

## (2) 第 1 次計画の数値目標となっている目標達成状況

省エネモニター CO<sub>2</sub>削減量におけるエネルギー消費量について

| 年度     | H23  | H24    | H25    | H26    | H23増は、震災で原発のシェア低下により係数が高くなったため<br>H22を1として考える |
|--------|------|--------|--------|--------|-----------------------------------------------|
| 実績値(%) | 36.4 | -0.8   | -5.7   | -3.3   |                                               |
| 目標値    | 0.99 | 0.9801 | 0.9703 | 0.9606 |                                               |

## 滝川市の公共施設におけるエネルギー消費量



| 年度      | H21   | H22   | H23   | H24   | H25   | H26   |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 施設計     | 5,378 | 5,614 | 6,703 | 6,538 | 6,296 | 4,765 |
| 前年比較(%) | -     | -     | 13.3  | -2.5  | -3.8  | -13.8 |

2. 環境にやさしい循環型社会が営まれるまち（生活環境）

(1) 現状と課題

- 主な取り組み  
平成15年度 広域ごみ処理施設リサイクルクリーンの稼働にあわせて、新たなごみの分別収集を開始しました。  
平成16年度 古紙、古着の拠点回収を開始しました。  
平成19年度 市役所で紙パック、古着、市役所ほかで天ぷら油の拠点回収を開始しました。  
平成22年度 資源ごみに古紙を追加し、巡回収集を開始しました。  
平成25年度 新たな広域ごみ焼却施設中・北空知エネクリーンが稼働しました。  
市役所ほかで使用済み小型家電の拠点回収を開始しました。  
平成26年度 ごみ処理料金の見直しをしました。資源ごみに雑がみを追加し、新たに有害あるいは危険なごみを特定品目（電池、蛍光灯、スプレー缶など）とし、巡回収集を開始しました。

- 課題  
平成15年度以降大幅にごみ量が減少し、リサイクル率が上昇しましたが、それ以降は横ばい傾向にあり、引き続き3Rを徹底し循環型社会を目指す必要があります。

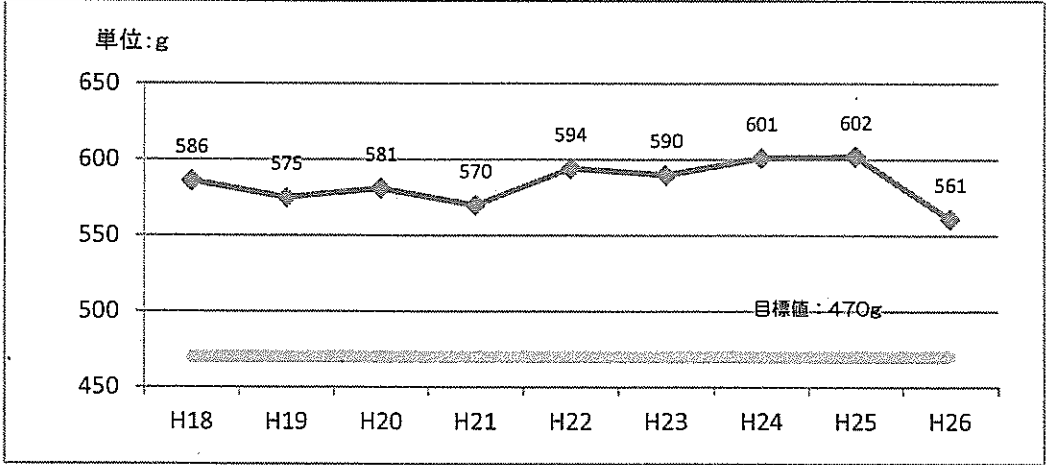
(2) 第1次計画の数値目標となっている目標達成状況

- 市民一人あたりのごみ排出量（家庭系ごみ（資源ごみを除く））について  
平成18年度の586g/日から、平成21年度には570g/日と年々減少しましたが、それ以降は増加し続け、平成25年度には602g/日となりました。しかし、平成26年度はごみの分別の見直しやごみガイドブックを全戸配布するなど啓発に努めたことなどから減量化が進み、561g/日に減少しました。  
平成27年度目標値の470g/日は達成できない見込みです
- リサイクル率について  
平成14年度は7.9%にとどまっていたましたが、新たなごみの分別収集により、平成16年度は21.7%まで上昇しました。しかし、平成21年度には19.2%と減少傾向が続きましたが、平成22年度以降に古紙回収を開始し平成26年度は20.6%と率が上昇しました。  
平成27年度目標値の30.0%は達成できない見込みです。

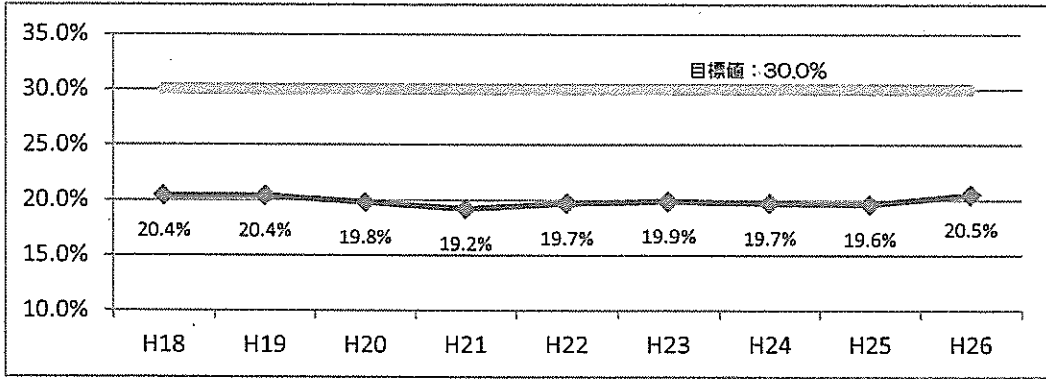
2.環境にやさしい循環型社会が営まれるまち（生活環境）

(2)第1次計画の数値目標となっている目標達成状況

市民一人あたりのごみ排出量(家庭系ごみ(資源ごみを除く))について



リサイクル率



3. 自然とふれあい、自然と生きるまち（自然環境）

(1) 現状と課題

|                                                                                                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ● <u>河川</u>                                                                                                                  |
| 市内には、国内3番目の長さを誇る石狩川とその支流である空知川の二大河川が流れています。その他、須磨馬内川、熊穴川、江部乙川、ラウネ川など全体で20を超える河川があります。                                        |
| ● <u>森林</u>                                                                                                                  |
| 道立花・野菜技術センター及び丸加高原にある牧野の周辺の天然林と丸加高原以東のトドマツ、エゾマツを中心とした人工造林に大別されます。                                                            |
| ● <u>森林面積</u>                                                                                                                |
| 平成25年の滝川市の森林面積は、1,280haで総面積の約11%を占め、森林のうち、天然林が699ha、人工林が512haとなっています。なお、平成15年の森林面積1,235haと比較すると10年間で3.6%増加しています。(資料：北海道林業統計) |
| ● <u>農家戸数</u>                                                                                                                |
| 減少し続けており、平成12年の789戸に対し平成22年には467戸と10年間で40.8%減少しています。(資料：農林業センサス)                                                             |
| ● <u>経営耕地面積</u>                                                                                                              |
| 平成22年の経営耕地面積は、田・畑・樹園地をあわせて約4,319haで、滝川市総面積の約37.3%を占めています。なお、平成12年の経営耕地面積4,475haと比較すると10年間で3.5%減少しています。(資料：農林業センサス)           |
| ● <u>課題</u>                                                                                                                  |
| 水循環や物質循環の過程において、農地、森林、河川のそれぞれが密接な関連性を持ち、環境保全に重要な役割を果たしています。水や空気をはじめ、私たちにもたらす自然の恵みを持続可能な状態に保つため、これら自然環境を一体的に保全していかなければなりません。  |

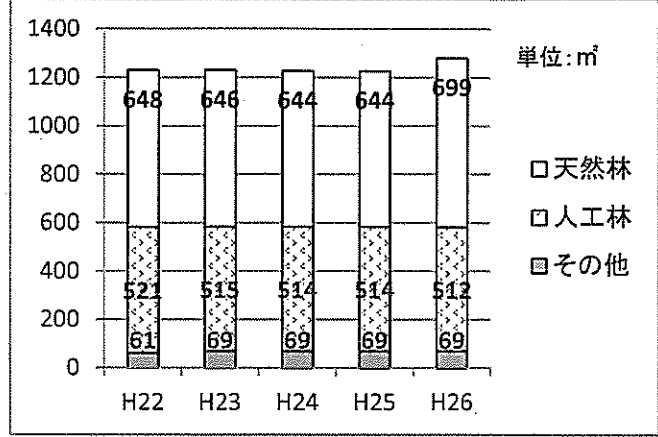
(2) 第1次計画の数値目標となっている目標達成状況

|                                                                                                     |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ● <u>農業体験授業（事業）の実施校数について</u>                                                                        |
| 平成26年度までの累計は26校と、平成27年度目標の40校には届かない見込みですが、学校のみならず食育ファーム、滝川おもしろ食育、保育所などでも取り組まれており学生などが農業を学ぶ機会が増えている。 |
| ● <u>石狩川ルネッサンスの森市民植樹祭植樹本数について</u>                                                                   |
| 平成26年度までの累計は5,380本と、平成27年度目標の7,700本には届かない見込みですが、平成26年度現在で森の面積の約90%が完了しており、今後は森のメンテナンス作業も行っています。     |

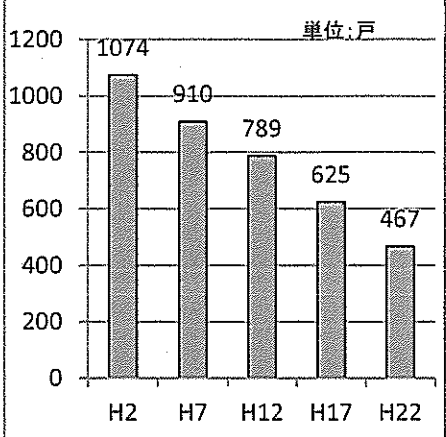
3.自然とふれあい、自然と生きるまち（自然環境）

(1) 現状と課題

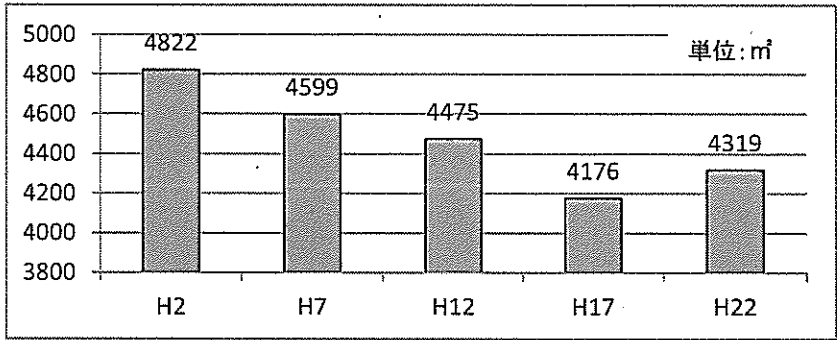
・森林面積



・農家戸数

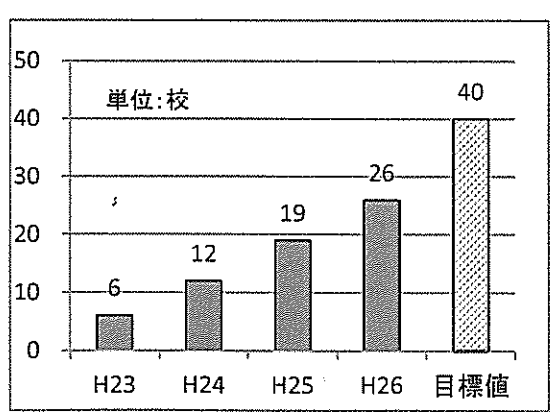


・経営耕地面積

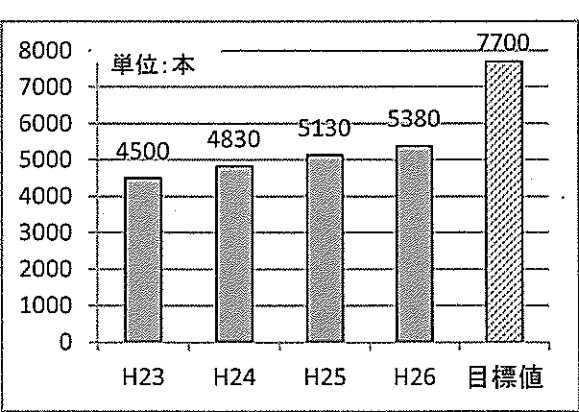


(2) 第1次計画の数値目標となっている目標達成状況

・農業体験授業実施校



・石狩川ルネッサンスの森市民植樹祭植樹本数



・森林面積  
・農家戸数  
・経営耕地面積  
「平成26年版 滝川市の統計(第40号)」参照

4. さまざまな主体や世代が協力して環境保全に取り組むまち

(環境コミュニティ)

(1) 現状と課題

|                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ● 市民団体等の状況                                                                                                                                                                         |
| たきかわエコネット登録団体の「緑とエコ・サポーターネット」や「江部乙丘陵地のファンクラブ」、「滝川消費者協会」、「手紬染織工房たきかわ」、「日本野鳥の会滝川支部」、「たきかわ環境フォーラム」、「滝川おもしろ食育塾」、「NPO法人まちづくり・川づくり協議会」などの市民団体による環境活動が活発に行われ、自然環境の保全や環境教育など大きな役割を果たしています。 |
| ● 環境教育                                                                                                                                                                             |
| 総合的な学習の時間など授業における環境学習、市民団体や行政による自然体験学習など、子供たちの環境教育が盛んに行われています。                                                                                                                     |
| ● 情報発信                                                                                                                                                                             |
| 環境に関わる情報を一元化しインターネットなどにより情報発信しています。                                                                                                                                                |
| ● 課題                                                                                                                                                                               |
| エコネットをとおして環境に関する活動に広まりが見え始めましたが、環境に対する意識をより一層高め、市民一人ひとりが環境に配慮した行動を実践するように努める必要があります。                                                                                               |

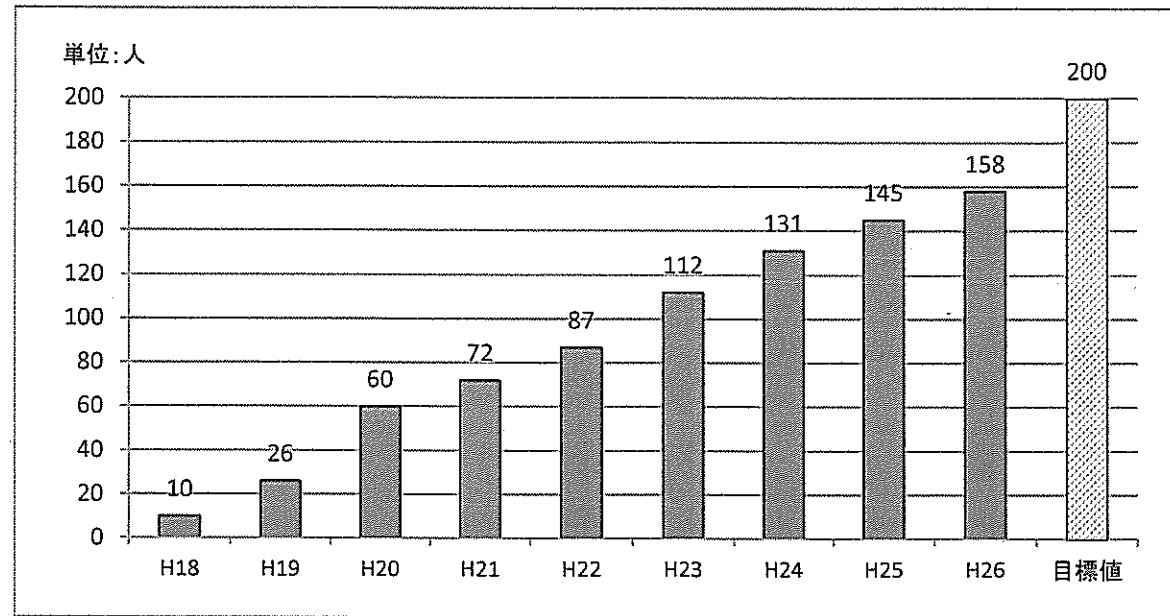
(2) 第1次計画の数値目標となっている目標達成状況

|                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------|
| ● 環境学習リーダー養成講座の受講者数について                                                               |
| 平成26年度までの累計は158人と、平成27年度目標の200人には届かない見込みですが、市内外の団体や人材と連携するなど人の環づくりの観点において一定の成果がありました。 |
| ● 市民大会の参加者数について                                                                       |
| 年間目標値は100人でしたが、概ね目標を達成できている状況です。                                                      |
| ● 環境関連イベントにおける参加者数の平均評価点について                                                          |
| 年間目標値は85点平均でしたが、各年度において目標達成できている状況です。                                                 |

4.様々な主体や世代が協力して環境保全に取り組むまち(環境コミュニティ)

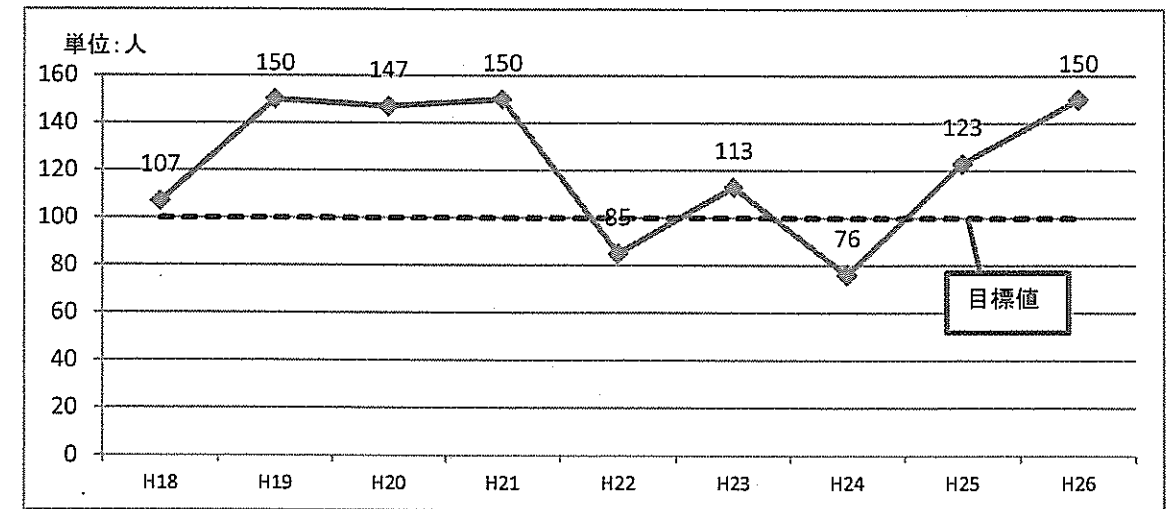
(2)第1次計画の数値目標となっている目標達成状況

・環境学習リーダー養成講座の受講者数



| 年度    | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 前年度累計 | -   | 10  | 26  | 60  | 72  | 87  | 112 | 131 | 145 |
| 当年度植樹 | 10  | 16  | 34  | 12  | 15  | 25  | 19  | 14  | 13  |
| 合計    | 10  | 26  | 60  | 72  | 87  | 112 | 131 | 145 | 158 |
| 目標値   |     |     |     |     |     |     |     |     | 200 |

・市民大会の参加者数



| 年度   | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 参加者数 | 107 | 150 | 147 | 150 | 85  | 113 | 76  | 123 | 150 |
| 目標値  |     |     |     |     |     |     |     |     | 100 |

・環境関連イベントにおける参加者による平均評価点(100点満点)

| 年度   | H23 | H24 | H25 | H26 |
|------|-----|-----|-----|-----|
| 参加者数 | 84  | 85  | 87  | 90  |
| 目標値  |     |     |     | 85  |

# Aグループ 協議内容

## 地球環境

### 気候変動・災害

- ・紫外線・気温上昇
- ・黄砂・大雪・川氾濫
- ・ゲリラ豪雨

### 地球環境を知る

- ・省エネモニター1年間
- ・CO2把握のため1年間とする
- ・高校生と環境調査・エネルギー調査

### ゴミ対策

- ・ゴミ袋の細分化
- ・町内会ゴミきれいに
- ・場所によってゴミステーション
- ・回収回数の増(ペットボトルとか)
- ・ゴミポイ捨て 公園、駐車場
- ・PETボトル フタ 燃えるゴミ  
エネルギー使う
- ・回収 町内会が増えれば  
やれる人が.....
- ・ゴミをお金に換算して伝える
- ・単身者向のごみ回収の方法

## 生活環境

### エコライフスタイル

- ・幼児期に環境意識ができる方法を考えたらい
- ・エコなライフスタイル
- ・ムダ使いしない(使い切る)
- ・リサイクル(捨てない)
- ・こども服のおさがりの活用  
(リサイクル)もっと身近に！
- ・売りやすい仕組みづくり
- ・食用油リサイクル台所から

### 自然エネルギーの活用

- ・空き店舗活用

- ・夏の夜バイクによる騒音  
(主に国道)

- ・太陽光発電
- ・バイオマス発電
- ・小水力発電で川を活用
- ・太陽光発電もっと取り入れ
- ・小型風力発電
- ・蓄電 最新法

# Bグループ 協議内容① 自然環境

## 農業

農業体験の受け入れ先が少ない

身内から情報発信

子供の受け入れのむずかしさ

農家が忙しくて体験できない。  
子供のアレルギー

丸加高原伝習館をもっと利用、  
風呂とか宿泊施設

菜の花がすごい  
道外から見に来るくらい

食育、アスパラ、  
菜の花の魅力を

滝川の自然のPR

市街地と緑地の分離

札幌は考えて都市計画  
滝川は無機質

## 森

森と市内がバラバラ  
川と人も

北大の生協  
間伐材を利用している(高いけど)

森林間伐材の  
利用は？

市有林(学校林、公園)の定期的な間  
伐や枝払いが行われていない

木を植えることの大切  
さって？

木を植える大切さ  
山に植える

割りばしはダメなのか

近所に森があるといい

イオンやマックスバリュ  
の木はどこの？

バイパス地区の開発時  
に市民も意見

緑を守る専門家の  
意見を聴く(木を守  
るための方法)

公園の木が弱っ  
ている。  
定期的に見ても  
らったほうがよい

## 川

石狩川と空知川の合流  
地点⇒滝川の語源  
食育の充実

ラウネ川の水質が悪い、  
よくなるか

ラウネ川の水質よくない  
⇒市民に問いかけ

市内に川を流すってできないか  
川は人を和ませる

洗い物の仕方

川をもっと身近に感じてほしい

札幌の豊平川みたいに  
汚い⇒きれい

市民が川の歴史を知りPR

サケが上る川

## Bグループ 協議内容② 環境コミュニティ

### 環境教育

人材バンクの場所が少ない

人材バンク等の周知

自然体験学習等呼びかけも集まりがよくない  
(関心が薄い?)

滝川の地誌、地理  
(自然・人文)⇒環境の把握、現状の把握

取りまとめるバンク的な機関  
登録されているけど機能してるの?

子供たちの環境教育集まり悪い

滝川の成り立ち現地の人知らない?

他地域は集まる

出前授業をもっと増やす

子供にもっと体験の場

学校の近くなので、児童が道通るがマナー悪い

子どもの通学  
朝、冬 危ない

子供が忙しい

わかりやすいPR

環境を考える人を増やすための秘策って?

いろいろなことに長けている人の登録

美術 自然史館をもっと身近に

学校への出前ってできる?

校外での学習プログラム

川に行くなら私連れて行きます。  
山に行くとか地域をつなげるために必要なこと

束ねる所やコーディネーター窓口

子供たちを巻き込んでしまえば親は動く

ゆとりの時間

### 食育

大人の食育やってみる

青年層、若年層の「食育」  
(毎日の食事作り)

短大のワンコイン朝食

農業体験ばかりでなく日々の食事をもっと考える場

1週間に1回、月に1回レシポ

保育児の母も学べる場所